

The Peavey logo is displayed in a stylized, italicized font with a metallic, three-dimensional appearance. It is centered within a rectangular frame that has two small circular elements at the bottom corners, resembling a speaker grille or a panel.

RBN™ 110

パワードスピーカーシステム



ユーザー
マニュアル

日本語

はじめに

Peavey® RBN™110パワードスピーカープロ向けシステムをお買い上げいただきありがとうございます。RBN™110はウーファーにて 1000W ピーク、リボンドライバーツイーターにて 500W ピークを出力可能なバイアンプのパワーセクションを搭載しており、どちらのアンプにもDDT™圧縮技術を採用しています。10" 高性能ウーファーと、真のリボンドライバーであるRD™2.6 を内蔵したRBN™110は、2つの独立したミックス入力チャンネルを提供します。各チャンネルにはゲイン調整機能、マイク/ラインゲイン選択スイッチ、1/4 インチTRS/XLR メスプラグに対応したコンボジャック、音量調整機能付きのバランス入力があります。DSP を使用したクロスオーバー機能とプロセッサ機能を通じ、設置場所における一般的な音響効果に対処するユーザーへ非常に柔軟なツールを提供します。

特徴

- * バイアンプパワードスピーカーシステム
- * ウーファー出力は550W ピーク、ツイーター出力は500W ピークが可能
- * 両パワーアンプにDDT 圧縮技術を搭載
- * 10" 高性能ウーファー
- * 低カラーレションの導波路を持つ Peavey RD™ 2.6 リボンドライバーツイーター
- * 音楽再生時のピークSPL は最大 125dB
- * DSP を利用したクロスオーバー、リミッター、イコライザー機能
- * ロータリーエンコーダーとプッシュボタンを用いてイコライザーのプリセットを選択可能
- * ロータリーエンコーダーとプッシュボタンを通じて9バンドイコライザーおよびその他のシステム設定を選択可能
- * ダイナミックバスブースト機能
- * 最大 150ms の構造遅延
- * 信頼性を最大限に高める冷却ファン
- * ゲイン調整機能およびマイク/ラインゲイン選択スイッチを搭載した、2つの独立したミックス入力チャンネル
- * 各チャンネルにおいて 1/4 インチ TRS/XLR メスプラグのバランス入力に対応したコンボジャックを採用
- * 入力チャンネル 2 には3.5 mm ステレオ入力メディアジャックを搭載
- * 出力コネクタは XLR オスプラグを採用
- * 右側面および上面背部にフルサイズのハンドルを装備
- * 保護クロスを裏打ちしたフルサイズのパンチングスチールグリル
- * 堅牢設計のポリプロピレン成形型エンクロージャ
- * ポールマウント内蔵
- * 軽量：わずか37ポンド
- * VM™ 70 マウンティングブラケットに結合するフライングポイント挿入グループを上部 と下部に装備

概要

Peavey® RBN™110はバイアンプの 2Way パワードスピーカーです。コンパクトなパワードスピーカーながら、高パフォーマンスを達成可能なシステム設計が施されています。この2Wayパワードシステムは 550 W ピークの失神具パワーアンプで構成されており、10” 高性能ウーファーを駆動します。真のリボンツイーター、RD™2.6 は500W ピークのスイッチングパワーアンプで駆動され、低カラーレションを達成する導波路に加え、水平方向に 110 度、垂直方向に 30 度の指向性を確保します。

RBN™110は最大 125dB のピーク SPL を誇ります。エンクロージャは堅牢な高性能プラスチックを成形版の台形に射出成型しており、フルサイズの塗装済パンチングスチールグリルを施すことで、魅力的な外観を保ちつつも耐久性のあるパワードスピーカーシステムを構成しています。キャビネットおよびグリルは黒色です。

2 つの独立したミックス入力チャンネルは、それぞれプリアンプ/イコライザー部へバランス入力とレベル調整機能を提供します。各チャンネルは XLR メスプラグと 1/4 インチ TRS フォンジャックのコンボジャックを備えています。マイクレベルとラインレベルの間で感度を切り替えることが可能であり、チャンネル 2 には 3.5mm メディアジャックが追加されています。ライン出力部には XLR オスプラグが採用されています。スルー出力を用いて別のスピーカーシステムと連結したり、音声信号をパワードサブウーファーへ送るなどの構成が可能になります。

バイアンプを駆動するパワーアンプは 550W ピーク出力を公称 8Ω 負荷のウーファーへ、500W ピーク出力を公称8Ω 負荷のツイーターへ供給可能な低歪率スイッチングユニットです。両アンプの電源は、軽量かつ高効率のスイッチングモード方式を採用しています。当社のDDT™圧縮技術が両アンプに搭載されており、可聴域のパワーアンプ出力クリップをほぼ完全に消去します。冷却は強制的な空気循環を通じて行われています。右側面および背面上部にフルサイズのハンドルを据付けて可搬性を強化しており、Peavey VM™ 70 マウンティングブラケット用のマウントポイントを搭載して可用性を最大限に高めています。

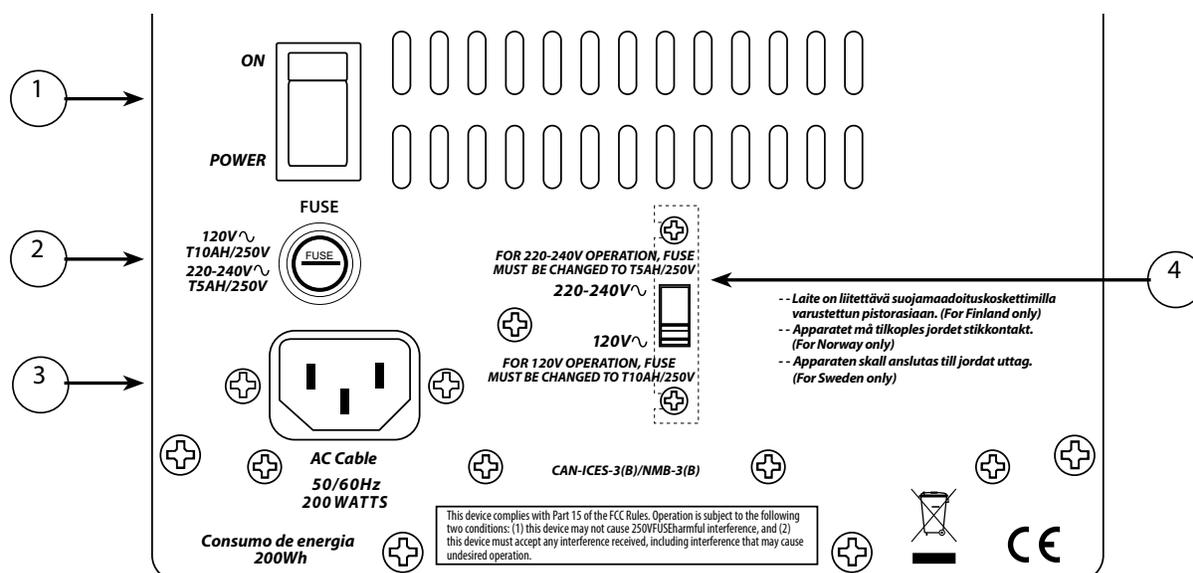
リボンツイーター付きの高出力ウーファーに DSP を通じたクロスオーバーとイコライザー機能を組み合わせ、既存のパワードエンクロージャをはるかに凌駕する明瞭さとインパクトをもたらします。スイッチングパワーアンプとスイッチモード電源、およびツイーター上のネオジム磁石システムなど、高水準の先端技術を非常に軽量かつお求めやすい価格で提供しています。

アプリケーション

Peavey® RBN™110は音質強化、場内放送、サイドフィルシステム、DJ、カラオケシステム、あるいは音楽再生など、幅広いアプリケーションにて利用できます。

Peavey RBN™110の代表的なライン入力ソースとしては、音質強化用ミキシングコンソール（ミキサー）あるいはCD プレーヤー/MP3 プレーヤー/テープデッキの出力などが挙げられます。ダイナミックマイクを直接接続して用いることも可能です。

リアパネル下段



オン・オフスイッチ (1)

このロッカースイッチを ON の位置に切り替えると、AC 電源が RBN™110に供給されます。スイッチの上部を押し込むか、リアパネルとほぼ同一の平面に達するまで押すと、ON となります。

⚡ ヒューズ (2)

過負荷や障害から製品を保護するために、AC 電源線には5 X 20MM、250V の低速溶断ヒューズが組み込まれています。ヒューズはヒューズホルダーのキャップを取り外すと出現します。保証を無効にせず、機器を保護するため、ヒューズが切れた場合は同一のタイプおよび定格のものと交換してください。

RBN™110内のヒューズは、5 X 20 MM、250V 定格の時間遅延ヒューズと交換可能です。

120VAC で駆動する場合、10A 定格のヒューズを用いてください。米国においては、GDC、GMC、215、218、477 の各カートリッジ、5 X 20 MM サイズ、10A、250V 定格のヒューズを用いることが可能です。

220-240VAC で駆動する場合、国際分類にて「T5AH」に属する 5A/250V ヒューズを用いてください。

交換したヒューズが切れ続けるようであれば、交換を中止し、認定サービスセンターへ修理を依頼してください。ヒューズ交換の際には、IEC 電源ソケットからIEC 電源コードを引き抜いてください。

⚡ IEC 電源コードの接続 (3)

このソケットへは、機器に AC 電源を供給する IEC 電源コード (製品に付属) を接続します。RBN™110に適切な AC 電源電圧が供給されているかどうか、必ず確かめてください。機器のリアパネルに取付けられている電圧選択スイッチ (4)を用いて、RBN™110の電源電圧を選べます。

人体、および機器の安全を確保するために、本マニュアルの記載事項を丁寧にお読みください。機器のアースピンは絶対に外さないでください。安全確保のために必要です。コンセントにアースピンが備えられていない場合、接地用アダプタを使用し、アース線を適切に接地させてください。感電や火災を防ぐために、ミキサーやその他の関連機材は全て、確実に接地させてください。

電圧選択スイッチ (4)

RBN™110は入力電圧を120VAC および220VAC～240VAC の間で切り替えられるスイッチを備えています。いずれの電圧も、50Hz/60Hz の両方に対応しています。パッケージ開封時には、お住いの地域の規格に対応した電圧が既に選択されているはずです。しかし、周辺地域の標準電圧とは異なる電圧値を採用している地域も局所的に存在しているのが、世界の实情です。

お住いの地域で用いられている電源電圧に、電圧選択スイッチの位置が合致しているかどうか、必ず確かめてください。合致していない場合、次の手順に従って正しい値を選択してください。

RBN™110電源電圧の切替

まず、RBN™110を電源線から切り離した後、電源スイッチ (1) を OFF の位置に切り替えます。

次に、電圧選択スイッチ (4) の透明スイッチ保護パネルが回転させられるよう、パネルのネジを緩めます。ネジは少し緩めるだけで十分です。

さらに、透明プラスチックのパネルを約90 度回転させて、電圧選択スイッチを露出させます。カバーの一端にはスロットが空けられており、もう一端には穴が空けられています。穴が空けられている側を支点として回転させます。

次に、小型のマイナスインドライバーを使用して、赤色の選択スイッチプレートを元の場所から反対側へスライドさせます。赤色のスイッチプレートが位置している側の電圧が、選択されます。

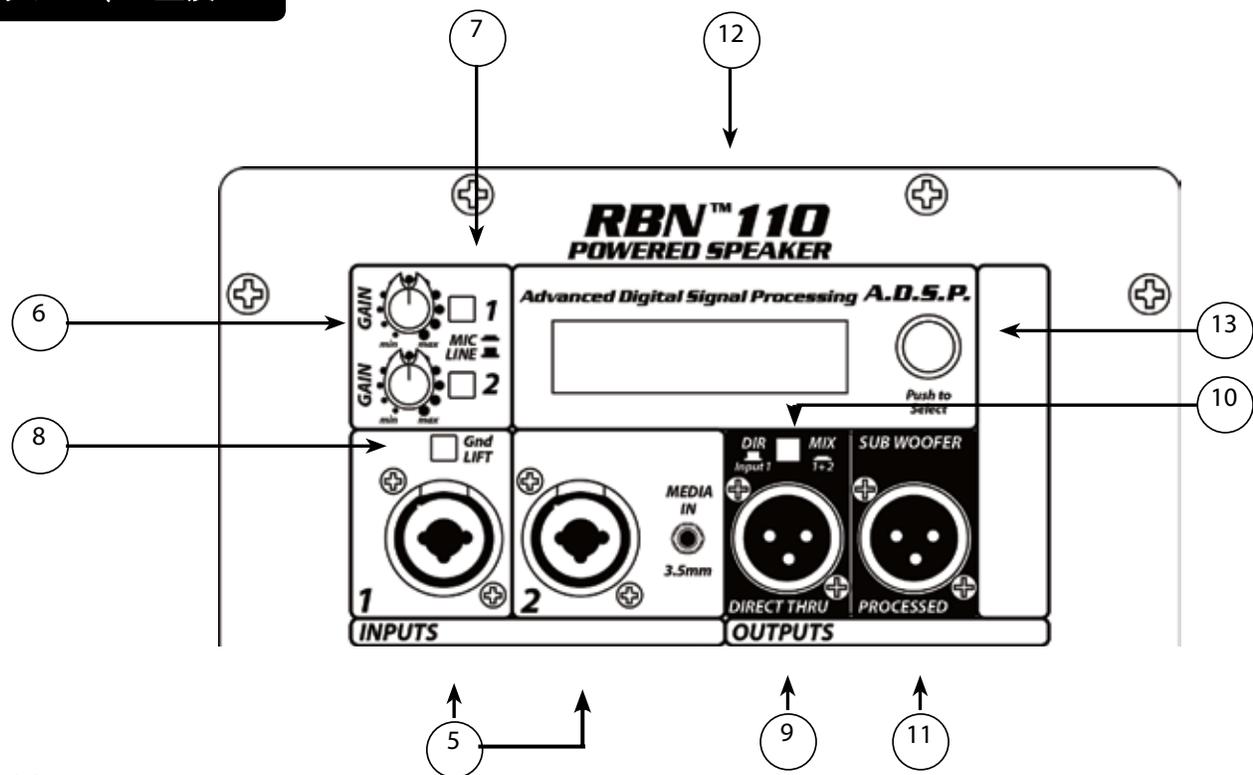
透明プラスチックの保護カバーを元の位置まで回転させ、カバーを押さえて固定させ、一方のネジを締めます。もう一方のネジも締め、どちらのネジも固く締まっているかどうか確認してください。

ネジを固く締めすぎると、電圧選択スイッチの透明プラスチックカバーを損傷します。力を入れ過ぎないでください。

最後に、ヒューズを適切な電流規格のものと交換してください。120VAC 電源電圧の場合は10A定格、250V、5x20 mm カートリッジの時間遅延ヒューズ（国際ヒューズ分類にて「T10AH」に属します）を使用してください。

220VAC～240VAC 電源電圧の場合は 5A 定格、250V、5x20 mm カートリッジの時間遅延ヒューズ（国際ヒューズ分類にて「T5AH」に属します）を使用してください。

お住いの地域に適合した IEC 電源コードを IEC 電源ソケット(3)に接続し、電源スイッチ(1)をオンにしてRBN™110パワードスピーカーシステムを作動させます。



入力 (5)

入力チャンネルは2 つ存在します。ライン入力はミディアムの入力インピーダンスを持つバランスタイプです。ジャックは XLR メスプラグと 1/4 インチ TRS コネクタのコンボです。入力感度は、MIC/LINE (マイク/ライン) 選択スイッチ(7)を LINE (ライン) に合わせた状態で、フル出力にて 0.42V です。チャンネル 2 はモバイル機器を信号ソースとして用いる場合に備えて、3.5mm ジャックを備えています。

CH1 と CH2 の両方に GAIN (ゲイン) 調整(6)を搭載

対応する番号の入力チャンネルのゲインあるいは出力レベルを調整します。入力信号のシステム出力レベルを直接調整できます。

CH1 と CH2 の両方に MIC/LINE (マイク/ライン) 選択スイッチ(7)を搭載

LINE (ライン) レベルのゲイン (突き出た状態) と MIKE (マイク) レベルのゲイン (押し込まれた状態) を切り替えます。MIC (マイク) レベルではゲインが 26dB 増幅され、ほとんどのダイナミックマイクが使用可能となります。

注意：入力ジャック(5)にファンタム電源は供給されません。

Gnd LIFT (グラウンドリフト) スイッチ(8)

シールドをシャーシグラウンドから切り離し、グラウンドループによるハムノイズを軽減します。

DIRECT THRU (ダイレクトスルー) 出力ジャック(9)

このジャックは複数のRBN™110を直列に接続したり、パワードサブウーファーやフルレンジで入力信号を受け取る必要のある機器へ出力信号を送るために使用します。

DIR/MIX (ダイレクト/ミックス) 選択スイッチ(10)

Direct Thru (ダイレクトスルー) 出力(9)の信号を、チャンネル1 入力のダイレクトスルー出力、あるいはチャンネル1 と 2 のミックス信号のどちらかから選べます。

SUB WOOFER PROCESSED (サブウーファー用) 出力ジャック(11)

RBN™215 または118 以外のパワードサブウーファースピーカーへ送るための、フィルタリング済信号を出力します。Push-To-Select (プッシュ選択) スイッチを用いて LCD 画面上でRBN™110のSetup Wizard (設定ウィザード) に従い、サブウーファーとその接続を適切に行ってください。

リアパネル上段

LCD 画面(12)

メニュー内容を表示し、Push-To-Select (プッシュ選択) スイッチ(13)を用いて起動し、操作できません。

Push-To-Select (プッシュ選択) ボタン(13)

LCD 画面(12)のメニュー項目を選択して確定するためのロータリーノブです。クリックするまでボタンを押し込むと、LCD 画面に表示されるメニュー項目を選択したり、動作やオプションを確定します。

危険

警告

機器の修理を行う前に、必ず AC 電源を外してください。修理は全て、認定されたサービス技術者に依頼してください。

背面プレートは火傷を伴う高熱に達する場合があります。冷却ファンや排気用ルーバーを塞いだり、覆って換気を妨げてはなりません。冷却ファンの背後には少なくとも10cm の隙間を設けてください。カーテン、布地、断熱用建材などの障害物で換気を妨げないでください。

RBN™110の背面は、密閉した空間や、新鮮な冷却用空気が得られない場所に晒さないことを推奨いたします。

大音量のフィードバック音を避けるため、マイクを入力に接続したり、マイクの音量を調整する際は、スピーカーの前面に置かないでください。この場合、システムに損傷を与えることになります。

RBN™110の入力はパワーアンプの出力に絶対に接続しないでください。スピーカーの入力はラインレベルの信号強度に耐えられるよう設計されています。

保護用金属グリルを絶対に外さないでください。

危険！ RBN™110は非常に高効率で強力な出力を持ちます。このサウンドシステムは聴力を恒久的に損傷することもあり得ます。最大出力を設定する際は、細心の注意を払ってください。

RBN™110の出力は明瞭で遠くまでわたるため、感覚的な音量は実際のものとは異なる場合があります。歪みや音割れがないため、音量が実際の値よりも低く聞こえる可能性があります。このシステムは、スピーカーから 1m の距離にて 125dB を超える SPL を出力可能であることを忘れないでください。

フライング/リギングに関する情報

警告：本スピーカーを吊り下げる前に、認定された構造技術者の助言を仰いでください。吊り下げが適切に行われない場合、スピーカーが落下して深刻な怪我や物損を引き起こす可能性があります。本スピーカーのエンクロージャには他の製品や機器を取り付けたり、吊り下げたりしてはなりません。エンクロージャの最大角度は 30 度です。完全に合致するハードウェアのみを用いて吊り下げてください。関連リギング作業は全てメーカーの責任対象外です。

可能であれば、通常用いている取付け方法に加え、適切な安全チェーンやワイヤーロープをサイドハンドルに通すか、他の挿入グループに取付け、認定された構造技術者が指定した適切な構造部材にしっかりと固定してください。ボルトが振動で緩む事態を防止するために、挿入箇所のボルトにはスレッドロッカーを用いることを推奨いたします。

あります。本スピーカーのエンクロージャには他の製品や機器を取り付けたり、吊り下げたりしてはなりません。エンクロージャの最大角度は 30 度です。完全に合致するハードウェアのみを用いて吊り下げてください。関連リギング作業は全てメーカーの責任対象外です。

可能であれば、通常用いている取付け方法に加え、適切な安全チェーンやワイヤーロープをサイドハンドルに通すか、他の挿入グループに取付け、認定された構造技術者が指定した適切な構造部材にしっかりと固定してください。ボルトが振動で緩む事態を防止するために、挿入箇所のボルトにはスレッドロッカーを用いることを推奨いたします。

アレイブラケットやその他の取付け用ブラケットを構造部材として用いて搬送することは絶対に避けてください。キャビネットはアレイブラケットやその他のマウントブラケットに取付けられる以外には支持材を持たないことになり、マウント用挿入孔に過度なストレスがかかります。

危険！（構造技術者への注意事項）

注意：RBN™110のフライポイント・プレート挿入孔のネジはマウンティングポイントの孔に差し込むことのみを目的としており、固定やフライングの目的に使用することは避けてください。マウンティングポイントの挿入孔には適切な種類と定格のボルトを使用してください。正しいマウンティングボルト径およびスレッド間隔は次の通りです：M6、スレッド毎に1.0mm。
グレード8.8 あるいはそれ以上のメトリックボルトが推奨されます。

各マウントプレートの挿入ポイントグループ中央にある小径のネジ2 つは、マウントプレートの保持用ネジであり、挿入マウントプレートや、フライングポイントとして利用されている箇所から取り外さないでください。これらの箇所には M6 挿入ポイントは存在しません。

RBN™110のマウント挿入は Peavey® VM70 マウントブラケット (03011050) および Peavey Impulse® 12 インチアレイブラケット (黒色00448690、白色：00440400) と4 つ一組で使用する目的で設計されています。RBN™110は Peavey® 壁掛けスピーカースタンド (黒色：00922940) と組み合わせることも可能であり、この際はキャビネット下部に組み込まれたマウントカップに結合させます。

VM70 に付属する標準ハードウェアはメトリックではありません。適切なグレードを維持するためには、追加でメトリックボルトを用いる必要があります。

RBN™110のフライング／リギング用ハードウェア

アイボルトやブラケットボルトは、スレッド間隔が 1.0mm の M6 メトリックスレッドボルトを使用してください。

安全確保のため、アイボルトやブラケットボルトは規定最小強度に準拠する必要があります。

一般のハードウェア小売店で入手可能な規格未準拠のアイボルトは、高度のあるフライングやリギングにおいて安全を確保するために必要な強度を備えていません。リギング目的に設計され、以下の規格に準拠した鍛鋼製の機械用ショルダーアイボルトのみを使用してください。

この Peavey スピーカーはユーザーズマニュアルの指示およびマニュアルの更新通知に記載の手順と制限にしたがって上部に懸架してください。

このシステムは、認定リグ専門家が、地方、州および連邦の懸架に関する条例にしたがって、認定リグハードウェアにより懸架してください。

ハードウェア仕様

鍛鋼製の機械用ショルダーアイボルトのサイズは M6、スレッド間隔は 1.0mm、準拠規格はDIN 580 またはASTM A489 です（ドイツでは、BGV-C1 が関連規格となります）。最小シャンク長は20mm です。アイボルトは少なくとも204kg の引張荷重定格を持つ必要があります。

カスタム仕様のマウンティングブラケットに使用するボルトは、グレード 8.8 またはそれ以上に適合したメトリックボルトを使用する必要があります。

Peavey RBN™110のフライングおよびリギングに関する適切なハードウェア取り扱い方法についてご質問がおありの場合は、認定された構造技術者に問い合わせるか、訓練を受けて認定された技術者を擁するリギング業者にお問合せください。

RBN™110への AC 電源の接続

RBN™110には約 180cm の IEC 規格 AC 電源コードが付属しています。本パワードスピーカーの電源線に延長コードやテーブルタップを使用している場合、必ず高品質で十分な電流容量を持つものを使用し、安全を確保し RBN™110の出力を最大限に引き出せるようにしてください。出力歪みを可能な限り抑えるため、RBN™110が接続されている延長コードには他の機器を接続しないでください。延長コードに接続される機器の定格電流合計が、コードの定格電流を超えないようにしてください。

AC 電源コードを初めて接続する前に、電源スイッチをオフにしてください。電源コードが接続された後初めて、スイッチをオンにします。手順を正しく踏むと、内蔵のミュート機能が作動します。

RBN™110のスピーカースタンドへの取付け

RBN™110には標準のマウントカップが既に成形されており、スピーカーシステムを標準の36mm 径スタンドポールに取付けられます。

スタンドまたはポールを用いる場合、以下の注意事項を必ず守ってください：

- A. スタンドまたはポールの仕様が RBN™110の重量 (37 lbs./16.8 kg) に耐えられることを確認し、スタンドの最大高など、スタンドメーカーにより規定される全ての安全注意事項を遵守してください。
- B. スタンドは必ず均一で平坦、安定した表面に置き、スタンド脚はメーカーの指示に従い、最大幅に広げてください。
- C. スタンドの付近にいる人々が可能な限り躓かない方向に、スタンド脚を伸ばしてください。絶対にスタンド脚がドアや廊下を塞がないようにしてください。
- D. ケーブルを配線する際は、人が足を取られたり、スピーカーを倒すことのないようにしてください。粘着テープ、ケーブルチャンネルやケーブルガード、あるいはその他の適切な固定/カバー用ツールを注意深く選定し、使用してください。
- E. スピーカーをスタンドへ取り付け/取り外しする際、もう一人の方にサポートを依頼することを推奨いたします。RBN™110を身近に支えながら、スタンドカップとスタンドポールの細い取付部分を取り扱うのは困難を伴います。また、RBN™110をスタンドポールから取り外す際、もう一人の方にスピーカースタンドとポールを押さえていただくと、RBN™110がポールと一緒に引き上げる事態を防げます。
- F. スタンドを屋外で使用する場合、バナーやフラグをスタンドやRBN™110へ絶対に取付けないでください。強風が発生した際、スピーカーが倒れる原因となります。風の勢いが強い場合、RBN™110スピーカーシステムが倒されないように、念のためにスタンド脚に重りを載せたり、地面に固定することも考慮してください。

RBN™110と RBN™215 Sub または RBN™118 Sub の接続

RBN™215 Sub あるいはRBN™118 Sub は、サブウーファーに付属する36mm 径ねじ付きポールを用いてRBN™110に取付けることが可能です。RBN™110をスピーカースタンドと組み合わせる際の注意事項は全て、RBN™110をRBN™215 Sub あるいはRBN™118 Sub に接続する際に適用されます。これら注意事項は主に B、D、E、F 項に記載されています。

RBN™110への音声信号の接続

RBN™110に信号を入力する方法は多岐に渡ります。

入力(5)はバランス型のマイクレベル/ラインレベル入力信号に対応しており、1/4 インチTRS (リングチップスリーブ構造) プラグあるいは XLR メスプラグを接続できます。

チャンネル2 入力には3.5mm のMEDIA IN (メディア入力) ジャックも搭載されています。

3.5mm TRS 入力ジャックは、携帯音声機器のヘッドホンに接続するために別途用意されたプリアンプに接続されています。チャンネル2 のゲイン調整を行うと、チャンネル 2 の入力コネクタ全ての信号レベルが変わります。マイクあるいはラインのコンボ入力と 3.5mm 入力を併用する際は、チャンネル 2 のゲイン調整をコンボ入力用に用いた後、モバイル機器を使用してヘッドホン音量を調整してください。RBN™110は単一音源に対応しているため、3.5mm ジャックはステレオ音声モノラルに変換するのでご注意ください。

機器の電源がオンになっており、GAIN（ゲイン）ノブの音量が大きい状態では、ケーブルをジャックに接続しないでください。標準のシングルエンド 1/4 インチフォンプラグを用いたケーブルでも十分な性能を発揮し、バランス入力回路が多少の干渉を除去できますが、バランス型TRS1/4 インチフォンプラグあるいは XLR プラグを用いることで、より高度な干渉除去能力と、性能を引き出せます。

干渉の除去が困難な場合は、RBN™110側でバランスケーブルのシールドアース（XLR のピン#1）を浮かせることで問題を軽減できる場合があります。入力信号の変化には常に注意を配り、ケーブルの接続や取外しを行ったり、グラウンドを浮かす前には、必ず GAIN（ゲイン）をゼロに調整してください。

RBN™110には高品質の高級ケーブルの使用が推奨されます。こうしたケーブルは概して優れたシールド性能および素材を持ち、長期にわたって高い信頼性を確保します。最良の組み合わせは、RBN™110までの距離と比較して必要以上の長さを持たない、シールドされたバランスケーブルとなります。RBN™110の入力部にはケーブルに多少の緩みを持たせ、人々がケーブルに躓いたり、スタンドに取付けられたRBN™110を引張倒さないように、ケーブルをテープで固定したり、ガード下に這わせることが、通常は推奨されません。

ゲイン調整

RBN™110は入力部にゲイン調整機能(6)を持ち、様々なアプリケーションで活用できます。ゲイン調整ノブを時計回りにフル回転させるとゲインは最高となり、MIC/LINE（マイク/ライン）選択スイッチ(7)をラインに合わせた状態で、スピーカーの定格出力における入力感度は0.42V RMS となります。RBN™110をミキサーから駆動する場合、ゲインを半分程度に調整して入力感度を減らすと良好な効果が得られます。これで、RBN™110は通常のパワーアンプに近い挙動を示します。

ミキシングボードにて出力信号のクリップが見られる場合、RBN™110の出力をうまく引き出せていないこととなります。信号が RBN™110に達する前にクリップすることは、あまり望ましい事態ではありません。ミキサーの出力レベルを落とし、RBN™110上でゲインを上げてください。

RBN™110のアンプにはDDT™機能が搭載されており、スピーカー前面のバッフルに取付けられた LED インジケータが、DDT™が動作中であることを示します。リアパネルの LCD 画面(12)にも表示がなされ、DDT システムが動作中は「DDT」の文字が浮かび上がります。

音声が大きく圧縮されて聞こえる場合、これらのインジケータをチェックしてください。頻繁に赤色点滅する場合、ミキサーからの駆動レベル（あるいはRBN™110のゲイン調整）を減らす必要があります。

サウンドシステムに初めて電源を入れる場合は、上流の電子機器全てにまず電源を入れ、続いてゲインを最小限に抑えた（ノブを反時計方向に回し切った）RBN™110の電源を入れてください。ミキサーの出力レベルを全てゼロにした状態からレベルチェックを開始し、RBN™110のゲイン調整ノブを所望の位置まで回して（1/3 の位置から開始することを推奨いたします）から、ミキサー出力を少しずつ上げてください。

RBN™110のゲインを最高レベルに調整した後に、ミキサーの出力レベルのみを調整する方法は、過剰なノイズの原因となるため、推奨されません。最良の方法は、ミキサーからRBN™110へのケーブルには高出力の信号を流し、RBN™110のゲインを必要な量のみ上げ、所望の出力を達成することです。この方法を用いる際は、ミキサー出力がクリップしていないことをまず確かめてください。

RBN™110からの AC 電源の取外し

電源スイッチ(1)を用いてまず機器の電源をオフにし、続いてAC 電源コードを取り外すことを推奨いたします。これにより電源オフ時の過渡現象がパワーアンプと変換器に与える影響を最小限に留められます。電源スイッチにはオフ時に効果を発揮するアーク消弧コンデンサが取り付けられており、AC 電源のスムーズな遮断が可能です。電源コードの IEC コネクタが完全に遮断される前に、コードの揺れなどを通じて断続的な接続が発生する可能性があります。

RBN™110DSP 設定メニュー操作

16 文字幅が 2 列並ぶLCD 画面と、プッシュ選択方式のロータリーエンコーダーが本機器のインターフェースを構成します。

ユーザーは、9 バンドのグラフィックイコライザー（GEQ）、出力極性の選択、ベース音強化の選択、信号遅延を処理可能な DSP 機能を設定することが可能です。これらの設定はパワードスピーカーシステムに適用され、場合によっては処理後の出力を調整することもあります。プリセットされた Program EQ（イコライザーのプログラム）設定メニューの選択を通じて、グラフィックイコライザーと Bass Enhancer（ベースエンハンサー）を調整することも可能です。

ユーザーインターフェース :

エンコーダーを回すと、トップレベルメニューの画面が表示されます。これらの画面表示にはInput Level (入力レベル) メーター、機器の構成内容、現在のユーザー設定など、現時点の設定情報が表示されます。トップレベルの画面でエンコーダーを押し込むと、関連する選択画面が表示されます。構成画面は、スピーカーを所望のアプリケーション向けに調整する際に重要な役割を果たします。構成画面は、スピーカーの電源が入れた際の初期画面に続いて表示されます。構成画面が選択されないまま5 分間過ぎると、Input Level (入力レベル) 画面が表示されます。ノブを回せば、いつでもこの画面を選択できます。構成画面を通じて、RBNTM110を最適な動作状態に調整することができます。2-3 の質問に答えるだけでプロセッサが構成を行い、適切な構成内容が表示されます。完了後、メインメニューが表示されます。

LCD 画面のバックライトは5 分間操作が行われないうちに消えますが、エンコーダーを回すと再び点灯します。バックライトが自動消灯すると、画面表示は Input Level (入力レベル) 画面に戻ります。これは、LCD バックライトを再点灯させる際に誤って構成内容を変更する事態を防ぐためです。

メインメニュー内の画面は次の通りです :

Configure? (構成しますか?)

Input Level (入力レベル)

Program EQ (Presets) (イコライザーのプログラムプリセット選択)

Bass Enhancement (ベース音強化)

Delay (遅延)

Graphic EQ (グラフィックイコライザー)

Polarity (極性)

Power amp meters Low and High (ローおよびハイのパワーアンプメーター)

Power amp Temperature (パワーアンプ温度)

Horn LED On/Off (ホーンLED オン/オフ)

Auto power Off (自動電源オフ)

Security Lock (セキュリティロック)

メイン画面 :

入力レベルメーター : 現在の入力信号レベルを表示します。

DDT 機能が使用されている場合、画面の右側に「DDT」の文字が明確に表示されます。

Configure? (構成しますか?)

Push Select (プッシュ選択) この画面は現在の状況を表示しており、直接編集することはできません。

構成メニューに入ると、システムを適切に設定して接続するための指示が出現します。

Configure? (構成しますか?) を選択した後に出現する画面

Use RBN110with Subwoofer? (RBN110をサブウーファーと共に使用していますか?) Yes or

No (はい、またはいいえ)

サブウーファーが存在せず、No (いいえ) を選択すると、位置画面に移動します

No (いいえ) がデフォルトで選択されています。

Yes (はい) を選択すると : サブウーファー選択画面

Subwoofer used: (使用中のサブウーファー :)

Selections

(選択可能な機器)

RBN Subwoofer

(RBM サブウーファー)

Other Sub 100 Hz (その他の100Hz サブウーファー)
Other Sub 110 Hz (その他の100Hz サブウーファー)
Other Sub 120 Hz (その他の100Hz サブウーファー)

注意：選択範囲を全て表示させるには、ロータリーノブを用いて画面を下方にスクロールさせてください。

If RBN Subwoofer
Connect Mixer to
RBN215 Sub Input

RBN サブウーファーが選択された場合：
(ミキサー出力をサブウーファー入力へ接続)

Connect Sub Proc
Out to Input (of RBN110)

Speaker Proc Out
is Muted

(サブウーファーの処理済出力を入力 (RBN110) へ接続スピーカー処理済出力がミュートとされます)

ミキサー出力 (音源) がサブウーファーに接続されている場合、システム調整は全てRBN Sub DSP (RBN サブウーファーDSP) モジュールを通じて行われます。9バンドGEQ (グラフィックイコライザー) など、ユーザーがRBN™ 110処理内容を選択した場合、信号遅延機能はバイパスされ、処理済出力はミュートされます。

Program EQ (イコライザーのプログラムプリセット選択)、GEQ (グラフィックイコライザー)、遅延画面の内容は全て変更されます。サブウーファーがクロスオーバー機能を実行するため、RBN™110ウーファーのハイパスフィルターはフルレンジ設定のまま置かれます。

If Other Subwoofer was the selection

Connect Mixer to
Speaker Input (of RBN110)

その他のサブウーファーが選択された場合
(ミキサーをスピーカー出力 (RBN110) へ接続)

Connect Proc
Out to Sub Input

(処理済出力をPVX p の入力へ接続)

PVXp あるいは「その他」のサブウーファーが接続された場合、Program EQ (イコライザーのプログラムプリセット選択)、GEQ (グラフィックイコライザー)、遅延機能の画面は通常通りに機能します。Processed (処理済) 出力は、処理済出力信号をサブウーファーへ送ります。

指定された周波数にてサブウーファーからの処理済出力とクロスオーバーさせるため、

RBN™110ウーファーのハイパスフィルターが持ち上げられます。

RBN110 Location: (RBN110の位置:) (構成画面のサブメニュー)

境界表面などの条件に対処するため、この設定を行うとウーファー専用の処理内容に影響が出ることがあります。

Pole Mount (ポールマウントーデフォルト設定)
Flown (フライング)

Floor Monitor (フロアモニター)

Program EQ: (イコライザーのプログラム) 現在のイコライザー選択内容を表示します (初めて電源を投入すると、EDM プリセットがデフォルトで選択されています)

(プリセット内容) EDM、Voice (ボイス)、Rock (ロック)、DJ …….

イコライザーのプログラム選択の効果は、Graphic Equalizer (グラフィックイコライザー) と

Bass enhancer (ベース音エンハンサー) に適用されます。

GEQ (グラフィックイコライザー) がユーザー設定された場合、「Custom (カスタマイズ)」の文字が表示されます。

RBN™110の電源を投入した際、カスタマイズを含め、前回使用されたプリセット内容が選択されます。

注意：入力信号が RBN サブウーファーのハイパスフィルター処理済出力である場合、以下の内容が画面表示されます：

「EQ Bypassed」 (イコライザーはバイパスされました)

「Use EQ in RBN Sub」 (RBN サブウーファー内のイコライザーを使用してください)

Bass Enhancement: (ベース音強化:) Off (オフ) または On (オン)。

Delay: (遅延:) Current delay time (現在の遅延時間設定)

画面上で 0~150ms の間で調整します。Feet (フィート) あるいは Meters (メートル) を単位として選ぶことも可能です。

注意：入力ソースがRBN サブウーファーの場合、RBN™110の画面には次のように表示されます：

「Delay Bypassed」 (遅延はバイパスされました)

「Set DLY in Sub」 (遅延をサブウーファーにて設定してください)

Graphic EQ: (グラフィックイコライザー:) 現在の設定内容、ISO オクターブ中心周波数 (63Hz~16kHz) において9 バンド +/- 12 dB

注意：入力ソースがRBN サブウーファーの場合、RBN™110の画面には次のように表示されます：

「EQ Bypassed」 (イコライザーはバイパスされました)

「Use EQ in RBN Sub」 (RBN サブウーファー内のイコライザーを使用してください)

エンコーダーを押して設定画面に入り、GEQ を調整します。エンコーダーを回すと調整対象の周波数帯域が選択されます。エンコーダーを押すと、その帯域を調整できます。エンコーダーを再度押すと、帯域選択に戻ります。メインメニューを退出する場合は、エンコーダーを16kHz 帯域を超えて「X」マークまで回すと、Exit (退出) の文字が出現します。エンコーダーを押してメニューを離れます。

Polarity: (電極:)

Normal (通常—デフォルトで選択)

Inverted (反転)

Power amp Level meter display: (パワーアンプレベルメーター表示:)

ウーファーアンプの上部ラインに「L」 ツイーターアンプの底部ラインに「H」が表示されます

2 つのパワーアンプへの入力信号が、水平の VU メーター形式にて表示されます。各チャンネルの Limit (リミット) 状態も表示されます。

Power Amp Temp: (パワーアンプ温度:) アンプの温度が、安全な動作範囲に収まっている間は監視され表示されます。温度が高すぎる場合、保護モードに入ったことがこの画面とメインの Input Level (入力レベル) 画面に表示されます。

Front Horn LED: (フロントホーンLED:) Set LED operation to: (LED 動作の選択:) Off (オフ) あるいは Power ON (電源オン)。電源オン時の動作が選択されると、アンプに電源が投入されている間は LED が点灯します。

Auto power off: (自動電源オフ:) Disable (無効)、15、30、60 minute delay (15/30/60 分間の待機時間)

Security Lock: (セキュリティロック:) 4 桁のセキュリティロックを設定すると、全てのパラメーターが編集できなくなります。ロックされた場合、編集を一時的に行う際にはアクセスコードの入力が要求されます。5 分間編集が行われない場合、ロックが自動的に再度かかります。

出力信号無し

まず、AC 電源が機器に供給されて、電源がオンになっていることを確認してください。パワーアンプモジュールのLCD 画面のバックライトが点灯していることを確認してください。

そうでない場合は、電源オン/オフスイッチ(1)がON になっており、IEC 電源コードの接続部(3)を検査して、コードが最後まで挿入され、固定されていることを確認してください。AC 電源コードが有効な AC 電源コンセントに接続されていることを確認してください。

最後に、ヒューズ(2)を検査してください。(マニュアル内にてリアパネル：ヒューズの安全指示を参照してください。)

機器に AC 電源が入力されていることが確認されたならば、RBN™110に信号が入力されているかどうかを確かめてください。スピーカーの入力に接続されているケーブルを一時的に取外し、信号再生可能な他の機器(パワーアンプとスピーカーなど)に接続してください。この結果信号が再生される場合、RBN™110の再生レベル調整機能を全てチェックし、十分なレベル(1/3 あるいは半分)まで確実に上げてください。

RBN™110が直射日光や過度の熱に晒されていた場合、内蔵の熱保護機能が作動した可能性があります。その場合、RBN™110の電源をオフにし、十分な時間、機器を冷却してください。

それでも出力が見られない場合は、Peavey の認定小売店またはPeavey International Service Center (Peavey 国際サービスセンター)までご連絡ください。

ハムノイズまたはバズノイズ

RBN™110がハムノイズあるいはバズノイズを発している場合、AC コンセントが原因の可能性があります。RBN™110を別の AC コンセントに接続してみてください。時折、ミキサーとRBN™110に別々の電源回路(ブレーカー)を用いると、ハムノイズが発生する場合があります。可能であれば、ミキサーとパワースピーカーの両方を同じコンセントブロック(ブレーカー)に接続することが推奨されます。

RBN™110の入力にはシールドケーブルを必ず用いてください。シールドケーブルの代わりに1/4 インチプラグのスピーカーケーブルを入力ケーブルとして用いると、ハムノイズやバズノイズが乗りやすくなります。

ハムノイズはグラウンドループに起因している可能性があります、RBN™110側でバランスケーブルのシールドアース(ピン#1)を浮かせることで問題を軽減できる場合があります。入力信号の変更は注意深く行う必要があります。ケーブルを抜き差ししたり、スピーカー側でシールドアースを浮かせる前に、音量をいっばいに下げてください。

調光器は、必ず RBN™110、ミキサー、あるいはその他の入力ソース機器とは別の電源回路を使用してください。調光器を使用している場合は、光量を最大限に上げるか下げるかして、ハムノイズを除去もしくは削減してみてください。これは典型的な AC 配線/調光干渉の問題であり、RBN™110の設計不良ではありません。

AC プラグの第三の線(アースピン)は絶対に破損させたり、取り去らないでください。安全上の問題の原因となります。

歪んだ、あるいは不明瞭な再生音

まず、ミキサー(入力ソース)がクリップしたり、出力レベルが過大になっていないかどうか確認してください。RBN™110のゲイン調整値(6)が低すぎないかどうか、確認してください。RBN™110リアパネルの入力部に、入力信号のジャックが確実に差し込まれているかどうか確認してください。RBN™110の入力ジャックにパワーアンプからの信号が接続されないように

してください。機器の AC 電源供給用に延長コードを用いる場合は、コードの電流定格に余裕があることを確認し、他の機器への電源供給には使用しないでください。

RBN™110はスピーカーの出力を滑らかにし、自然な再生音をよりよく実現するためのイコライザーを内蔵しています。バスブーストが過大に設定されていたり、外部機器にて高周波ブーストが加えられている場合、RBN™110は高SPLにて通常よりも早く、過負荷状態に達します。外部イコライジング（ミキサー、ラックなど）の量を減らして、歪みが除去されるかどうか検査してください。

外部機器によるバスブーストや高周波ブーストが加えられていないにも関わらず、バスブースト（ブーミー、バスのクリップ）、および／または高音ブースト（甲高さ、シズル、音の硬さ）が過大に聞こえる場合、LCD画面のDSPメニュー内、Set-Up Wizard（設定ウィザード）における設定内容が間違っている可能性があります。画面にて適切な設定内容を選択してください。

ミキサーからの出力をRBNサブウーファーに接続し、サブウーファーからRBN™110に接続している場合、RBN™110のSet-Up Wizard（設定ウィザード）においてUSE WITH RBN SUB（RBNサブウーファーと併用）メニューを選択する必要があります。

Set-Up Wizard（設定ウィザード）メニューにて正しい項目が選択されているにも関わらず、ブースト量が大きすぎる場合、Acoustic (Flat)（アコースティックフラット）プリセットなどの、ブースト量の少ないプリセットを選択し、Tone（トーン）調整は最大限に上げないよにしてください。

最後に、たとえRBN™110が強力な高出力機器であるとはいえ、最終的には出力の限界を迎えます。その際、音量や到達範囲を十分に確保するには、外部のパワード機器（あるいはサブウーファー）が必要になる場合があります。その際は、ミキサー出力の音量を少し下げ、音声が明瞭になるかどうか検査してください。ここに記載された注意事項を全てチェックし、安全に確認可能な他の事項を全て検査した後、スピーカーシステムにまだ問題が見られる場合は、状況を詳細に記して、Peaveyの小売店へ助言を求めてください。

手入れとメンテナンス

RBN™110は堅牢で耐久性のある製品であり、適切な手入れを行えば長期間にわたって安定した使用が可能です。常識を用い、安全上の注意事項をよく読んで、危険な操作環境を避けてください。

機器の修理を行う前に、必ずAC電源を外してください。修理は全て、認定されたサービス技術者に依頼してください。

日光／熱源への暴露

直射日光に長時間晒すことは避けてください。機器が過熱し、熱保護機能が作動してシャットダウンします。

過度な高温での動作環境もまた、熱保護によるシャットダウンを招きます。

極端な高温または低温、あるいは非常に湿度の高い環境にて保管することは避けてください。機器の使用前は、必ず室温に慣らしてください。

清掃

RBN™110の電源コードが接続されていたり、電源がオンの状態では、絶対に清掃を行わないでください。機器をAC電源から外した後、乾いた布を用いて泥やその他の汚れを拭き取ってください。強力な溶剤はRBN™110のキャビネットを損傷させますので、絶対に使用しないでください。RBN™110の内部にはいかなる量の液体もこぼさないでください。

表面の仕上げ

全体の仕上げを強化したり、保護用被膜を形成する場合は、グローブをはめた状態で、Armor-All® 保護剤や同様なプラスチック製の仕上げ保護剤をプラスチックキャビネットの表面のみに塗装してください。こうした仕上げの後にはキャビネットが滑りやすくなります。この影響を最小限に留めるために、乾いた糸くずの出ない布を用いて、力を込めて磨いてください。

ハードウェアの緩み検査

使い始めてから 2-3 週間後、そしてその後も定期的に、RBN™110のハードウェアを検査して、リアパネルのネジやバツフルとリアキャビネットを接合するネジが緩んでいないかチェックしてください。

機器は大幅な振動に晒されるため、使用に伴いハードウェアに緩みが生じる原因となります。

構造仕様および技術仕様

このパワードラウドスピーカーシステムは 73Hz~20kHz の周波数応答を持ちます。歪みが聞こえない範囲でのピーク SPL は、音楽を入力ソースとした状態でフル出力まで駆動し、1m の距離から測定した場合、125dB に達します。このシステムは 高性能10" ウーファーと、真のリボンドライバーツイーター、Peavey RD™2.6 を内蔵しています。公称指向角度は水平面にて110 度、垂直面にて30 度です。

バイアンプのパワードラウドスピーカーシステムは2 つのミックス入力チャンネルを搭載しており、XLR メスプラグと 1/4 インチ TRS フォンジャックのコンボジャックを採用した、ミディアムのインピーダンスを持つ入力コネクタをリアパネルに備えます。チャンネル 2 は 3.5mm入力ジャックも搭載しています。

XLR オスジャックを採用した、ダイレクトスルー（出力）コネクタが利用可能です。

このジャックの出力は、チャンネル 1 の入力信号のみか、チャンネル 1 と2 のミックス信号のどちらかを選択できます。

システムパワーアンプはフィルタリング無しの状態にて 20Hz~20kHz の周波数応答を持ち、定格出力にいたるまでの変動は+1/-3dB 未満の範囲です。ハムおよびノイズレベルは定格出力未満にて90dB 以上、THD（全高調波歪み）および IMD（混変調歪）は通常0.1%未満です。

ウーファーアンプは 8Ω の公称負荷に対して連続で 275W の出力、ツイーターアンプは 8Ω の公称負荷に対して連続で 250W の出力が可能であり、どちらも独立した信号圧縮機能を備えています。

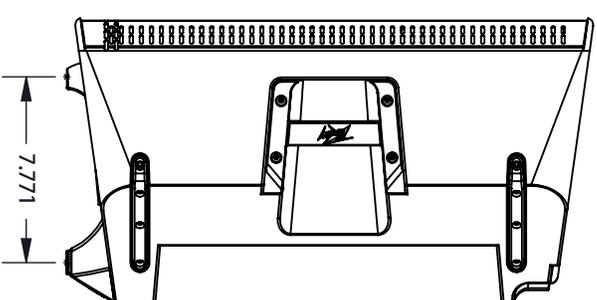
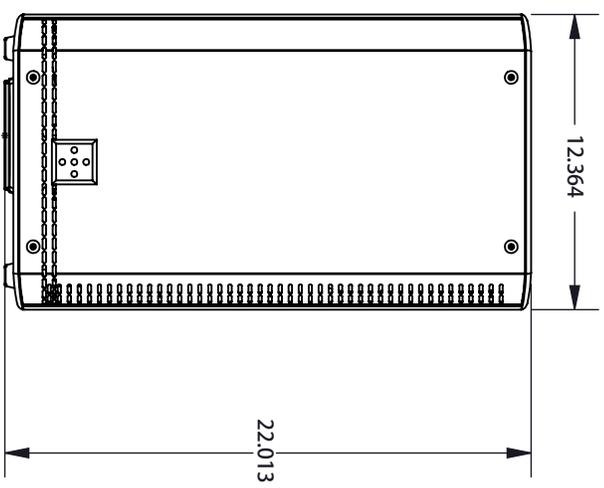
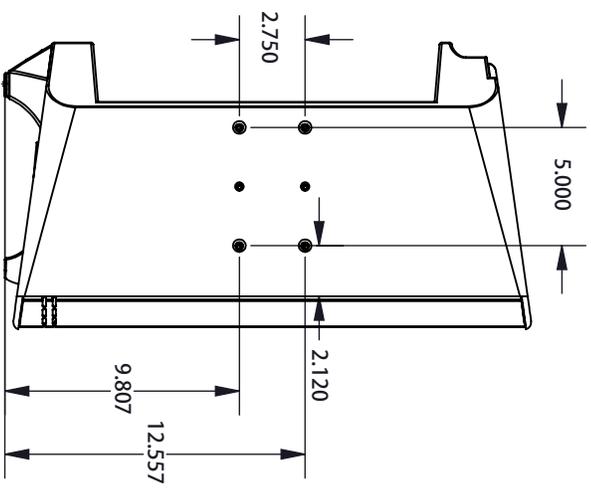
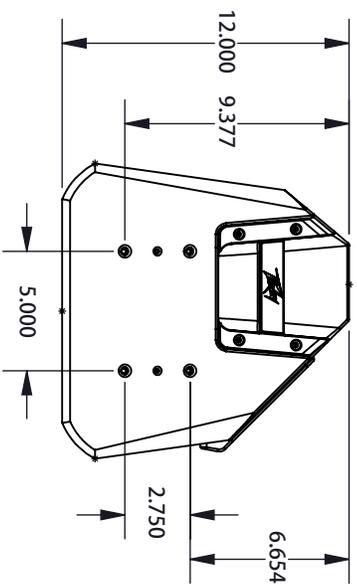
入力信号は、2.0kHz にてクロスオーバーが設定された、4 次のスロープを持つリンクウィッツライリーのラインレベルフィルターにより電氣的に高周波数成分と低周波数成分に分割されます。低周波数成分はバスブースト、サブソニックフィルター、全体の応答シェーピングを提

供するよう処理され、高周波数成分は応答シェーピング用にイコライザーを通過します。エンクロージャは UL 燃焼性規格に準拠し、射出成型されたポリプロピレン素材で構成されており、内部からリブを補強しています。ウーファー付近の右側面、およびキャビネットの背面上部付近にハンドグリップが備えられています。

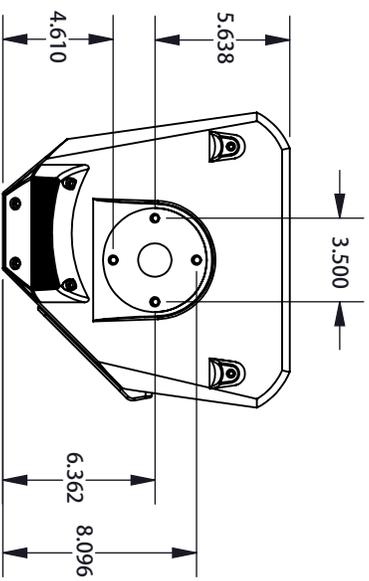
粉末被膜を施したフルサイズの金属グリルがホーンとウーファーの保護用に取付けられています。キャビネットはスピーカースタンドの利用に備えてポールマウントを内蔵し、フロアスタンド用途に十分な高さを持つ4 つのゴム脚を備えています。

外形寸法は次の通りです：高さ x 幅 x 奥行 = 56.0 cm x 31.4 cm x 30.7 cm、重量は16,8kg です。消費電力は次の通りです：公称 200W、120VAC、50/60Hz（国内）、220-240VAC、50/60Hz（輸出）。このラウドスピーカーシステムの名称は Peavey® RBN™110 です。

上部取付け位置



下部取付け位置



周波数応答：73Hz～20kHz

低周波数限界（-3dB 点）：73Hz

使用可能な低周波数限界（-10dB 点）：63 Hz

内蔵パワーアンプ（120VAC 電源）：

ウーファー：550W ピーク出力が利用可能

連続出力：1%未満の歪みにて275W

ツイーター：500W ピーク出力が利用可能

連続出力：1%未満の歪みにて250W

公称感度（1W@1M、無エコー環境にてスイープサイン波使用）96 dB（平均）

最大音圧レベル：音楽再生時に125 dB ピーク

公称指向角度：水平方向 110 度、垂直方向30 度

変換器の構成要素：10” 超高性能ウーファー、およびアルミ複合材を使用した4.75 インチ長のリボンツイーター、

RD™2.6

ボックスチューニング周波数（Fbox）：62 Hz

電気音響クロスオーバー周波数：2,000 Hz

クロスオーバースロープ：ローパス：24 dB/oct（4 次）、ハイパス：24dB/oct（4 次）、ドライバークライザー

入力コネクタ：バランス入力およびアンバランス入力に対応した XLR メスプラグおよび1/4インチフォンジャックのコンボ入力 x2、3.5mm ステレオメディアジャック x1。

出力コネクタ：XLR 出力 x2、うち 1 つはチャンネルA のみか、チャンネルA/B のミックスを電氣的に選択可能なフルレンジスルー出力。もう一方のXLR 出力はハイパス出力。

調整方式：チャンネル1 および2 のゲイン調整ノブ。チャンネル1 および2 のマイク/ラインゲイン選択プッシュボタン。

ステータス表示：青色のリボンレンズインジケータ点灯は電源オンを表示、点灯効果はユーザー設定によりオフにすることも可能。フロントバッフルの赤色LED 点灯は DDT 機能が作動し

ていることを示します。

レベル入力モードにおけるリアパネルのLCD 画面には、右側に「DDT」の文字が点滅してDDT機能の作動を示します。LCD の左側にはバーグラフが表示され、信号レベルを示します。

電気クロスオーバー：DSP を利用しており、LCD 画面とロータリーエンコーダーを使用したイコライザープリセットおよびグラフィックイコライザーの選択機能を持ちます。クロスオーバー周波数は2.0kHz に設定されています。ローパススロープ：24dB/oct、ハイパススロープ：

24dB/oct

DSP セクション仕様：

レイテンシー：約2.7ms

ADC/DAC サンプリング周波数：96 kHz

ビット長ADC/DAC 用に24 ビット、DSP 演算用に32 ビット。

エンクロージャ素材および仕上げ：

内部にリブ補強支柱を持ち、射出成型されて仕上げを施されたプラスチック素材です。成形素材および金属グリルは黒色です。グリルは外観をエレガントに整えるために布地で裏打ちされています。

取付け：

サブウーファーまたはスピーカースタンドは内蔵された35mm 径のポールマウント経由で結合、フライングは VMTM70（上部および下部に各 4 つのM6 挿入ポイント）を接続、フロアまたはステージ利用の場合はゴム脚を使用します。

寸法：

H x W x D

22.06” X 12.37” X 12.10”

56.0 cm x 31.4 x 30.7 cm

重量：

37 lbs. (16.8 kg)

電気仕様およびアンプ仕様：

電気入力インピーダンス（公称）：

バランス入力：ラインレベル感度が選択された際に10k Ω 。

アンバランス入力：ラインレベル感度が選択された際に5k Ω 。

マイクスイッチ感度増幅：26dB

フル出力時の入力感度（フルCW レベル）：0.42V RMS

入力過負荷点（スイッチ位置はライン）：+14dBV

超低周波数フィルター保護：36dB/oct ロールオフ

アンプの公称周波数応答：+0、-1 dB、10 Hz～30 kHz

ハムおよびノイズ：定格電力以下で 90dB 以上

DDT ダイナミックレンジ：14dB 以上

THD（全高調波歪み）および IM（混変調歪）：通常は 0.1%未満

ダンピングファクター：1000Hz、8 Ω にて100 以上

Peavey® RBNTM110システムの消費電力（国内向け）：

公称 200W、120VAC、60Hz

ヒューズ種類：

120VAC 用：国際ヒューズ分類：T10AH 250V。米国においては、GDC、GMC、215、218、477 の各カートリッジ、5x20mm サイズ、10A、250V 定格の時間遅延ヒューズを用いることが可能です。

220-240VAC 用：国際ヒューズ分類：T5AH 250V。5A、250V 定格、5x20mm サイズのカートリッジ式時間遅延ヒューズです。

仕様は予告なしに変更される場合があります。



www.peavey.com

Warranty registration and information for U.S. customers available online at
www.peavey.com/warranty
or use the QR tag below



Features and specifications subject to change without notice.

Peavey Electronics Corporation 5022 Hartley Peavey Drive Meridian, MS 39305 (601) 483-5365 FAX (601) 486-1278



Logo referenced in Directive 2002/96/EC Annex IV
(OJ(L)37/38,13.02.03 and defined in EN 50419: 2005
The bar is the symbol for marking of new waste and
is applied only to equipment manufactured after
13 August 2005